

加齢によるもの忘れと認知症の違い

「昨日の夕飯を思い出せない」「伝言を忘れていた」等、認知症かなと心配になるものですが、指摘されて「ああそうだった」と思い出すことができれば加齢によるもの忘れです。

加齢によるもの	認知症によるもの
体験したことの一部を忘れることがある。 (例：食事したことは覚えているが、何を食べたか忘れることがある)	体験したこと自体を覚えていない。 (例：食事をしたことを覚えていない)
ヒントを聞くと思い出すことができる。	ヒントを聞いても思い出せない。
もの忘れを自覚している。	もの忘れの自覚がない。
目の前の人の名前が思い出せない。	目の前の人だれか分からない。
約束をうっかり忘れる。	約束したことを忘れる。
物の置き場所を忘れる。	物を置いたことを忘れてる。

認知症かなと思ったら

認知症は、適切な治療やケアを行うことにより、進行を遅らせたり、症状を軽くすることが期待できます。「あれ！おかしいな？」と思ったら「かかりつけ医」や「地域包括支援センター」に相談しましょう。

※認知症についての受診や相談の時に困らないよう、普段の様子（家事、買い物、入浴、排泄、お金・薬の管理など）や困ったことを具体的にメモしておきましょう。

早期の相談や受診が大切です。

- 認知症の症状が出て、原因がわかることで治療につながり改善する場合があります。
- 治療と本人の気持ちに寄り添ったケアで、症状の進行を緩やかにする事ができます。
- 症状の軽いうちから、制度などを知ることにより、生活の備えができます。

相談窓口



田布施地域包括支援センター	☎ 0820-53-1292
田布施町役場健康保険課	☎ 0820-52-5809
田布施町保健センター	☎ 0820-52-4999

かかりつけ医

電話番号

※ かかりつけ医の連絡先を記入しておきましょう